

□海外文献紹介□

大量のコカコーラの飲用後に起
こった気腫性胃炎

Emphysematous gastritis secondary
to ingestion of large amounts of
coca cola: *Hadas-Halpren I, et al*
(*Am J Gastroenterol* 88: 127-129,
1993)

急性の気腫性胃炎 (acute emphysematous gastritis; AEG) はガス産生性の細菌 (*E. coli*, *Bacillus welchii*, *Staphylococcus aureus*, *nonhemolytic alpha Streptococcus viridans*, *Proteus vulgaris*, *Bacillus aerobacter* など) が胃壁内に侵入し、胃壁に急性の炎症を引き起こすことによって起こる、生命を脅かす疾患である。この疾患は急激に出現する腹痛で発症し、敗血症により早期に死亡することが多く、60~80% の高い死亡率が報告されている。たいていの症例では発症前に腐食剤の飲

用、腹部手術、アルコールの濫用などがあり、粘膜の破壊が引き起こされることが誘因となる。

本疾患は 1889 年に Fraenkel が報告した。X 線による診断の報告の第 1 例は 1946 年の Ween の報告であり、以来 28 例の報告があるにすぎない。

症例は 16 歳の少年で、大量の肉の食事とコカコーラ 1,500 ml を摂取後数時間の後、腹痛と嘔吐が認められた。同様の食事をした家族は、誰も彼のような症状を訴えなかった。来院時、発熱と頻脈、蠕動の低下を認めた。経鼻胃管が挿入され、3,000 ml のコーヒー様の内容物が吸引された。腹部単純 X 写真では、著明な胃と十二指腸の 3rd portion までの拡張と門脈内のガス像を認めた。胃と十二指腸の壁は著明に肥厚し、気泡と線状のガスを伴っていた。気腫性胃炎の診断がなされ、広域ス

ペクトラムの抗生剤と Cimetidine が投与された。24 時間後の X 線像では門脈内のガスは減少し、2 日後には完全に消失した。胃と十二指腸壁内のガスは 7 日後に消失した。11 日後の上部消化管 X 線検査では正常な胃と十二指腸像が得られた。1 か月後の胃内視鏡検査では充血した襞を認め、生検では軽度の炎症を伴っていたが、潰瘍や潰瘍瘢痕は認めなかった。

本症の臨床症状は突然起こる腹痛と敗血症の症状であり、診断は特徴的な腹部 X 線所見 (胃壁内に認められる気泡所見で、門脈内にも認められることがある) でなされる。良好な予後のためには早期の診断と治療が重要である。

(愛知県がんセンター消化器内科

中村 常哉 抄)